

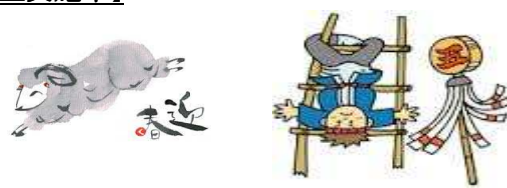


【文化庁・伝統文化 親子教室事業、と金親子将棋教室実施中】

新年おめでとうございます。本年も宜しくお願い致します(講師一同)

〔本日は、恒例の「新春将棋大会」を開催します。〕

プロ棋士・塚田泰明九段が来訪されます。指導対局をお願いしています。



「強い人は何故強い？」◆一手の意味◆

強い人の一手には、必ず意味がある。とりあえず・・・って指す手など無いと言い切っているだろう。一手づつ交互に指しても、意味のある手を指し続ける人と意味の無い手を指し続ける人では、手数が進めば、大きな形勢の差となって現われるのは当然の結果である。

一手の意味には、以下のようなものがある。

①陣地を築く(ある地点の守りを固める) ②攻撃準備 ③攻撃を仕掛ける ④相手の攻撃を受ける ⑤逃げる ⑥敵の浮き駒(離れ駒)をとる。「①陣地を築く」と「②攻撃準備」は、まじめにやっていたら、双方互角となるが、③～⑥に関しては、強い人と弱い人で差が出やすい。

弱い人は、一手に一つの意味しか込められないから、ひとたび「③攻撃を仕掛け」られると「④攻撃を受ける」又は「⑤逃げる」としかできなくなり、また攻められ、また受ける(逃げる)という悪循環に陥り、一向に攻められなくなり、気が付けば「裸の王様」状態となってしまう。

強い人は、「③攻撃を仕掛け」られても、「④相手の攻撃を受け」ながら、「③攻撃を仕掛け」たり、「⑤逃げ」ながら「⑥敵の浮き駒をとる」ような手を次々と繰り出し、すぐさま主導権(先手)を取ってしまう。(一手に複数の意味が込められているため、実際は一手しか指していないが、「受ける手」と「反撃する手」の二手を連続で指したのと同じ効果がある。つまり、弱い人が一手指す間に、強い人は二手(又はそれ以上)も指しているから強いのです)

強い人が、「③攻撃を仕掛け」られたとき、「④相手の攻撃を受け」ずに、「③攻撃を仕掛け」返すこともある。そんなときは、双方一つの意味しか込められていないが、強い人の一手の方が戦略的に厳しい手であることが多く、受けないと王様の危険度がより大きい場合が多い。(そんなときは、**緩手(ゆるい手)**を指したと反省しよう！)

「我流戦法封印へ」

皆さんの独自で考えた戦法を使わないようにして頂きたいと思います。(自己流)

あなた方の愛用してきた我流戦法をもう使えなくなるの、嫌だって思う人もいるかもしれませんが

皆さんが独自で考えた戦法は穴だらけの戦法という事を理解してください。

それでも使いたいという方はどうぞ大いに使って結構です。ただし、その先のレベルへは上がれないと思ってください。厳しい事を言うかもしれませんが、有段者の方はその戦法の穴を確実に攻めてきます。

そして、皆さんは完全にやられてしまう事でしょう。それだけ有段者は強いのです。

そのためにあなた方はここはひとつ我慢して、**名のある戦法を使っていたらいい**と思います。

やはり、名のある戦法はそれなりの歴史を背負っています。あなた方は、その歴史を大いに利用しなければなりません。それはあなた方が勝つための大いなる手助けになることでしょう。

12月開催の昇級・新入会者

12月13日開催分、昇級者 井口雅輝君初段に昇段、野村權君4級昇

12月20日開催分 昇級者 三浦光葵君5級昇

他の大会

1、2月1日(日) 支部対抗戦・支部名人戦・シニア名人戦愛知県大会(と金から3人制対抗戦に5チーム参加します。)

2、小学館・集英社杯第40回愛知県小学生将棋名人戦 ②中日小学生交流将棋大会、2月11日(水・祝)AM9:30～受付AM10:00 対局開始 (2)とこ 栄将棋教室

※ 2月より教室は、と金クラブ将棋教室主催と成ります

